

神奈川県南支部のホームページは（[全日本建設交通一般労働組合 \(ctg-kennan.net\)](http://ctg-kennan.net)）をクリックか右のQRコードからアクセスできます。分会・班の仲間は多くの労働者に広げてください。



2026年4月22日

かながわけんなんしふ

建交労神奈川県南支部

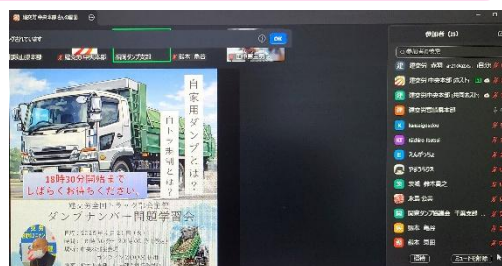
2026年春闘 No.14

2025年度推進ニュース①通算412

発行責任者 小島 茂

ダンプナンバー問題学習会60名超が参加 トラック&ダンプ共同で困難を克服しよう！

建交労全国トラック部会は4月21日18:30「ダンプナンバー問題学習会」を建交労中央本部で開催、北海道から九州までのオンライン参加50名余を中心に60名を超える仲間が参加しました。神奈川県南支部からは小島委員長と赤羽が参加しています。学習会は開催の主旨説明などを含めて全国トラック部会の鈴木事務局長の司会で進行しました。



今回の学習会の主旨は今年4月1日に施行された「トラック適正化2法」にともない、これまで自家用ダンプをもって建設現場で働いてきた車持ち労働者が白ナンバーであることのみを理由に業務から排除されている誤りや原因をトラックの仲間が理解しダンプ労働者との共同をはかることなどにあります。その状況も踏まえ主催者の足立部会長（中央執行委員長）は「米国・イスラエルによる無法なイラン攻撃が国民生活はもちろん、ダンプやトラック労働者の労働環境悪化にも拍車をかけている」として共通する課題の克服などを呼びかけました。



学習会講師は長年全国ダンプ専従者として活動を続ける栃木県本部の山内健人委員長が務めました。山内委員長は冒頭で、車持ちダンプ労働者が抱える問題になじみが薄いトラックの仲間にも理解しやすいようにと、ダンプ労働者が抱えてきた（ている）歴史的な背景から解き明かしていきました。

歴史的な問題の第一は、国会が60年以上前（昭和38年）から日本の高度経済成長に伴って建設現場で急増していた白ナンバートラック（ダンプ）の問題点を認識しながら法整備を怠ってきたこと（立法の不作为）。第二は、総理府・運輸省・労働省（当時）などが白ナンバーダンプの問題点（違法性）を承知しながら「合法」とこじつけて放置してきたこと（行政の不作为）。また、この背景にはゼネコン中心の建設業界に「安上がりのダンプ労働者を温存する」思惑が働いていた（る）と指摘しました。

最後に山内委員長は、車持ちダンプ労働者の苛酷な労働実態に触れ「車持ちダンプ労働者排除の撤回とともに、法整備を含め安心して働ける職業にする運動を展望していきたい。ダンプ・トラックの苛酷な労働環境の原因は財界・大企業による物流コスト削減戦略にある。今回の学習会を通じて同じ建交労の仲間として相互理解を深め共同の運動をすすめたい」締め括りました。

講演は非常に分かり易い内容でしたがトラック部会の参加者が少なかったことが残念でした。



講演後に参加者の感想を聴く山内栃木県本部委員長（右）